

東風見聞録

平成25年5月発行 通巻53号

イーストウインド・プロダクション 田中正人・竹内靖恵

群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢637-M302

電話・FAX 0278-72-9292

Patagonian Expedition Race 2013 準優勝

今年2月にパタゴニア(チリ)にて開催されたPatagonian Expedition Race 2013で、イーストウインドは準優勝を果たしました。今回は9ヶ国から11チームの参加でしたが、完走したのは1位のイギリスチームと2位のイーストウインドの2チームでした。優勝台を目指していたイーストウインドは、残念ながら常勝のイギリスチームに勝つことができませんでしたが、最後まで強い気持ちが途切れることなく、良い試合となりました。皆様、応援、本当にありがとうございました。



【大会名称】 Patagonian Expedition Race 2013

【大会公式サイト】 <http://www.patagonianexpeditionrace.com>

【開催期間】 2013年2月8日～2月22日(レース期間は2月12日～21日)

【総距離】 約701km

【レース種目】 トレッキング、マウンテンバイク、シーカヤック、ロープアクティビティ(全種目ナビゲーションで進む)

【参加チーム】 11チーム

【完走チーム】 2チーム

【イーストウインド成績】 準優勝

田中正人



このレースは相手との戦いではなく、すべて自分たちとの戦いであること。今回の我々は、トランジション(競技種目入れ替え地点)や夜間キャンプするときの時間の使い方に無駄が多かった。厳しいレースであったために、そうした休息できるポイントでは、ゆっくりしてしまう傾向がありました。そうした少しずつのタイムロスがレースの流れに乗り切れない要因を作っていたように思います。

今回最難区間の中間地点ではスタッフが焚き火をしてチームを待っていました。トップのイギリスチームは、長居してしまうことを恐れて焚き火から離れて休息したそうです。しかし我々は真っ先に焚き火に当たっていた。この常勝チームの意識の強さに勝たなければならない。我々は自分たちに負けていたのです。

しかしながら、良い面もありました。2名もメンバーを入れ替えたのに2位という前回同様の結果を残し、世界トップクラスのチームであるということを証明できました。チームの組織文化として定着できた感があります。また、陽希のナビゲーション(特にルートファインディング)能力が世界トップクラスであることが証明されたように思います。彼は進化し続けている。トレッキング難関区間でイギリスチームが30時間かかったところを我々は22時間で突破できました。これは大きな自信となりました。

今回の2位は、前回の2位よりも大きな価値があります。多くの新しいチャレンジの上で得た2位でした。3位以内を目指した結果の2位と、トップを意識し続けるの2位とはこうも違うのかという感があります。トップのイギリスチームは現在の我々の目指すべき星という存在です。レース後の懇親の場で、彼らは惜しげもなく自分たちの戦術を教えてくださいました。次回では、彼らの胸を借りる思いで、しかし自分たちに決して負けないという強い思いで戦いたいです。

こんな素晴らしい経験をさせていただけるのも、多くの方々の応援とご支援があるからに他ありません。感謝に堪えない気持ちで一杯です。我々は、この経験を社会に還元し、日本をより元気にするために活動していくことが使命です。今後もチームイーストウインドを末永く支援していただきますよう、よろしくお願いたします。

田中陽希



今回のレースは日本チームとしては優勝を目標に挑みましたが、今回のような難コースで自然環境が厳しく、チームや個人にその厳しさが精神的にも肉体的にも追い込まれていく中で、どんな状況下でも立ち向かっていけるチーム・個人でいられるか、自分たちに負けないレースをすることが最大の課題でした。しかし、10日間という長い期間でその状況を維持するのは並大抵のものではなく、自分たちに負けてしまう場面がありました。結果、2位という順位になったのだと思います。自分たちの力のなさや優勝するために必要な高い意識レベルまで到達していないことを痛感させられるレースとなりました。結局、1位のイギリスチームから丸1日遅れでのゴールとなり、レース期間をフルに使っての昨年と同じ2位でのゴールでした。今回、明確になった課題を克服することで来年こそは確実に優勝をすることができるでしょう！

今回も多くの方々から私たちの挑戦に注目していただき、そして支えてくださいました。その地球の裏側まで届いてしまう皆様の熱い応援に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に皆様応援ありがとうございます。

山北道智



想像を超える大自然に圧倒された10日間でした。このレースで私が学んだことは、自然に対する畏れです。レース中、大半の時間を占めたトレッキングの間は四六時中雨が降っており、足下は濡れて手は冷えて、エネルギーも尽きてコテンパンにやられていました。周りを見渡しても人の気配は全くなく、歩きやすいトレイルはおろか固い地面すら見えない状況でした。人の力の及ばない大自然を前に、自分のできることはなんて少ないのかと思い知らされました。自然は正直です。薄っぺらい経験や想像は吹き飛ばされ、ありのままの自分をさらけ出されます。それでもなお、楽しく、自分の小ささを知り、ゴールを目指して進み続ける毎日信じられないほど充実していました。今回のレースは今までの蓄積を発揮するのに、これ以上無い場所でした。経験豊富なメンバーを信頼して進み、調子の悪いメンバーを助け、チームで最高の結果を残すために力を出す。残念ながら優勝することはできませんでしたが、この準優勝・完全完走という経験は優勝を狙うにあたって大きな支えとなる確信があります。素晴らしい経験を与えて下さった方々、チームメンバー、家族には改めて感謝します。

田口明美



私にとって初めてのエクスペディションレース。今まで最長24時間のレースしか参加したことがなかったのに、いきなり10日間ノンストップでしかも優勝狙いという、かなりなプレッシャーの中、持ち前の脳天気さで、「まあなんとかなるか。とりあえず精一杯ついて行こう！」という気持ちでレースは始まりました。

初めての濃い藪。ひたすら続く湿地帯。どう進めば良いのか解らない。元々一番体力がないのに小走りは体力を消耗します。何とかついていく歩き方は出来ないものかと考えて、ストックで体を押し出し、歩幅を無理やり合わせることにしました。ツルバと呼ばれる湿地帯は足の踏み場を誤ると膝くらいまで脚が埋まるため、前の人が踏んだところを歩くほうが安全なので歩幅があっていると都合が良い。そうすることでやっと歩くりズムをつかめるようになってきました。

しかし5日目に疲労蓄積と不自然な歩き方のため左ふくらはぎに不快を感じ、アキレス腱に痛みが出始めた。その後は痛みとの戦いでした。決して自分のケガでレースを中断させてはならないという思いで必死についていきました(レース後、アキレス腱の一部断裂が判明)。

今回のレースは初めてのことで、とても大変だったけど、その分、ゴールしたときの達成感はずごかった。この貴重な体験が出来たのも、ご支援や応援してくださった多くの方々のおかげなので、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

Patagonian Expedition Race 2013 報告会 in 東京&京都

4月6日(土)代々木オリンピックセンター(東京)、4月20日(土)京都にてPatagonian Expedition Race 2013の報告会を開催させていただきました。

東京では、大雨注意報が発令される中、多くの皆様もいただきました。京都でも雨となりましたが、満席となりました。足元の悪い中、お越しくださった皆様、開催に至り、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

チームイーストウインド女性メンバー募集

Patagonian Expedition Raceで活躍した田口明美が4月1日に入籍をいたしました。

そこでイーストウインドでは、田口に続く女性メンバーを募集しています。今年11月コスタリカで開催される世界選手権(ARWC)出場と、来年のPatagonian Expedition Race 2014に向け、ともに優勝を目指す有志をお待ちしています。

詳細：http://www.east-wind.jp/information/post_135.html

また「イーストウインドのメンバーになりたい」という男性も募集しております。

詳細：<http://www.east-wind.jp/team/trainee.html>

上毛新聞

BICYCLE21



2月23日(土)付 上毛新聞にイーストウインドのことが掲載されました。上毛新聞は、田中正人、田中陽希の地元でもある群馬県の新聞で、いつも応援をしてくれています。



BICYCLE21 3月号(ライジング出版)に、パタゴニアレースのレポートと、田中陽希のインタビュウが掲載されました。トップチームに見せつけられたレース展開の違い、レースの中で学んだこと、新メンバーを入れたことへの想いなど、プロアドベンチャーレーサーとしての陽希の顔が観られます。

群馬テレビ



3月20日(水)20:00~21:00 群馬テレビ『ニュースeye8』(生放送)にて、田中正人と山北道智が出演し、アドベンチャーレースの醍醐味や、パタゴニアレースについて紹介しました。

『激走！日本アルプス大縦断 密着、トランスジャパンアルプスレース 富山～静岡415km』



昨年8月に開催された、日本一過酷といわれる山岳マラソンレース「トランスジャパンアルプスレース」。このレースを密着取材したエッセイシャル取材班が、番組では紹介しきれなかった秘蔵のエピソードや追加取材で得た情報を加えて構成した驚愕のノンフィクションが、4月26日に集英社より発売されました。本書内には、過去3回出場した経験があり、また大会実行委員会副代表として番組の撮影にも加わらせていただいた田中正人についても随所に盛り込まれています。

その他

【講演】 テーマ「絆」



3月27日(木)、プルデンシャル生命保険株式会社に講演の機会をいただきました。

講演全体のテーマは「絆」。田中正人は、アドベンチャーレースを通して学んだチームワークから「絆＝人間関係」についてお話させていただきました。

会場内では、アドベンチャーレースのあまりの過酷さの話にはどよめきが起こり、またおもしろいエピソードには笑い声が響いていました。また、多くのご聴講者様が熱心にメモを取っていらっしゃったのが印象的でした。

このような機会をいただきましたことを、ご担当されたプルデンシャル生命保険の五井様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

【講演】 テーマ「チームワーク」

3月から4月にかけて、テイケイ株式会社様に5回の講演の機会をいただきました。メインテーマは「チームワークとは」。演壇にてお話しをさせて頂く他にも、実際にミニトレーニングを体験していただいて、チームワークの難しさを体で感じていただきました。今後はフィールド(登山)にて、チームワークを実体験する研修を行う予定です。

【講習会】 京都ナビゲーション講習会

毎年恒例になった京都東山ナビゲーション講習会。関西アドベンチャーレーサー陣と共に、田中正人が講師をさせていただきました。ご参加くださいました皆様、スタッフの皆様、ありがとうございました。

レポートはこちら

http://www.adventure-race.net/Report/cat41/kyoto_navigation/2013.04.21.html